

都城工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	歴史学	
科目基礎情報							
科目番号	0002		科目区分		一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	物質工学専攻		対象学年		専1		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	使用しない。必要に応じてプリントを配布する。						
担当教員	田村 理恵						
到達目標							
1) 自分の住んでいる地域の特色を歴史的観点から説明できる。 2) 他の地域、この授業ではイギリスの歴史を尊重し関心をもつことで、国際的感覚を養成する。 3) 自分なりの視点で異なる歴史を比較し、自分の考えを述べる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	自分の住んでいる地域の特色を歴史的経緯から説明でき、他の地域との比較ができる。		地域の特性とその要因となった歴史的事項が結びついている。		九州の基本的な特色が分かる。		
評価項目2	地域や国によって考え方は異なっており、それが歴史的に形成されてきたこと、相互理解が必要であることを理解し、他の地域へも応用できる。		イギリスの特色が歴史的経緯から説明できることを理解する。		イギリスの特色を形成している基本的な考え方が分かる。		
評価項目3	異なる時代、国を比較することで、その地域の特性が明確になることを理解する。また、実際に自分の視点から異なる地域を比較し、自分の意見を述べるができる。		自分なりの視点で、異なる国や地域の歴史を記述することができる。		基本的な歴史用語が分かり、異なる地域や時代であっても比較できることを理解する。		
学科の到達目標項目との関係							
JABEE (a) JABEE C1							
教育方法等							
概要	ある地域の歴史及び文化を説明するためには、他の地域との比較が必要である。そこで、本講義ではイギリスを比較対象地域として取り上げ、日本及び九州と比較することで、双方の特色をとらえ、表現できるようにする。国あるいは地域には、独自の歴史とそれに基づく文化があることを理解する。						
授業の進め方・方法	講義形式で行う。						
注意点	1) 自分でノートをしっかり取ること。 2) 提出期限は守ること。 3) 自分の住んでいる地域、および世界に関心をもつこと。						
ポートフォリオ							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業計画の説明 暦、歴史区分、地域区分		暦の種類、歴史区分と地域区分を確認する。		
		2週	古代の九州（1）		古代の九州にはどのような人々が住み、どのような共同体をつくっていたのか理解する。		
		3週	古代の九州（2）		中国などとの交流から、九州での「くに」のあり方を知る。		
		4週	古代の九州（3）		九州が「大和政権」の下に統合されていく過程を理解する。		
		5週	中世の南九州		島津氏のもとで、南九州がどのような歴史をたどったかを見る。		
		6週	中世の九州		博多の盛衰を通じて、自治のあり方を理解する。		
		7週	近代の南九州		近世の地域区分が必ずしも近代に引き継がれず、それが現在にも影響していることを知る。		
		8週	日本人意識		「日本人」という意識を過去の人々は持っていたのかを考える。		
	2ndQ	9週	中間試験		日本の歴史の確認		
		10週	試験の解答 イギリスの概要		イギリスの概要を知る。		
		11週	中世の都市（1）		自治権を持つ中世都市の歴史と機構を知る。		
		12週	中世の都市（2）		自治権を持つ中世都市の歴史と機構を知る。		
		13週	都市と王権（1）		自治都市と国王政府との関係を知る。		
		14週	都市と王権（2）		自治都市と国王政府との関係を知る。		
		15週	「民族」意識と地域		イギリスの分権傾向を知る。		
		16週	試験とその解答とレポートの評価		レポートの評価		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週

基礎的能力	人文・社会 科学	社会	地歴	日本を含む世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的または地理的観点から理解できる。	4	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前13,前14
				国家間や国内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的または歴史的観点から理解できる。	3	前2,前8,前11
				文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。	4	前3,前12,前13
			地歴・公民	今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。	4	前15,前16

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	1	0	19	100
基礎的能力	55	0	0	1	0	15	71
専門的能力	25	0	0	0	0	4	29
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0